



錦秋の湖東三山

写真 高橋さつき

11月21日(日)鈴鹿市日本共産党後援会は2年ぶりに秋のバス旅行「湖東三山 紅葉めぐり」を実施しました。コロナ感染が収まっているとは言うものの定員は30名程度とし、万全の対策で臨みました。ご覧のようにすばらしい紅葉でした。



野党共闘をもっと発展させたい!



10月の総選挙で共産党は比例代表で2議席減らすなどちょっと残念な結果になりましたが、政策には少なからず共感が広がり、特に気候変動やジェンダーなどの問題では若い人たちにも新鮮に響いたと思います。

選挙のあと、「野党共闘は失敗」「共闘見直し」などの報道が「それ見たことか」と言わんばかりに流され議席減に加えガッカリ感が増幅されるような気分になりそうでした。でも選挙結果を冷静にみると4年前と比べて野党の候補者一本化で競り勝った選挙区が増え、その中には甘利幹事長ら自民党幹部をやぶるなど野党共闘が一定の効果を発揮したと言えるのではないのでしょうか。しかもわずかの差で負けたところも共闘だからこそ接戦にもちこめたという選挙区も多く、頑張りいかんでは次の

選挙で大きく結果は変わってくるのではという希望も十分あると思います。

自公や維新もそれがよくわかっているからこそ、野党共闘の流れをどうしても壊したいから声高に「共闘失敗論」を強調するんでしょうね。

今回、政権交代は実現できなかったけど一回目の挑戦で実現できなかったからといってあきらめないで、これからも共闘の努力を積み上げていきたいです。後援会のみなさん、いっしょにがんばりましょう～。

(桜島 谷口 茂)





伝える中身より伝え方を工夫する必要がある



前回の後援会だより(7月号)で私は「東京都議選に続き、総選挙でも大躍進を」との見出しで文章を書きました。9年間続いたアベ・スガ政治には国民の怒りがあり、ここで野党が共闘すればきっと大躍進するだろうと固く信じていました。ところが結果は躍進どころか2議席の減。信じられない思いで開票結果を見つめました。「泣いた。涙が止まらなかった」という人もいました。私は男だから泣きはしませんが(おっと、これってジェンダー?)、何が何だかわからないと言ったところでした。

その後いろんな人と話をする中で、「掲げた政策は正しかったが、それが国民に浸透しなかった」というのは、ひとつ腑に落ちました。中身がよくても聞いてくれなくては話になりません。どうやったら

聞いてもらえるか?一つは若さと明るさです。共産党には田村智子さんや山添拓さんのような「若々しくて明るくて、しかも賢い人」がいっぱいいます。こういう人を前面に出して、そして私たちも彼らを見習って、明るく元気に活動しましょう。

5年前、共産党は野党共闘の道に踏み出して、イメージを変えました。活動スタイルでも、今、イメージチェンジが求められています。人は語る中身以前に、語る人を見ていますから。

(寺家 吉田一男)



「その先」と「ずっと先」をどう語るか?

鈴鹿市議会議員 石田秀三

今回の衆議院選挙で、私たちは小選挙区での野党の共同と、比例区での共産党の議席増を訴えて活動しましたが、まだまだ多くの皆さんに理解と共感を広げるには至りませんでした。いろんな意見をお聞きする中で、日本共産党が今の政治を変える政策と、その先の社会をどう変えようとするのか、日本社会の現在と将来について、腹におちるような説明がスカッと出来てなくて、「政権交代」と言われるとそのことが引っかかる、との声もいただきました。

今は日本を本当の民主主義の国にすることが目標

日本共産党の基本的な文書「綱領」では、第4章が「民主主義革命と民主連合政府」、第5章が「社会主義・共産主義の社会をめざして」と記述されています。現在はまだ第4章の入り口で、日本を本当の民主主義の国にしようがんばっている段階です。民

主連合政府ができて民主的な改革が進むとしても、相当の時間がかかることでしょう。

さらにその先の未来社会については、第5章では資本主義を乗り越えた社会、生産手段の社会化、人間による人間の搾取の廃止という理念は書かれていますが、具体的な「青写真」はありませんし、世界のどこにもありません。また旧ソ連や今の中国などは社会主義ではない、アメリカと同様に「大国主義・覇権主義」の国としています。

私が思うに皆さんが知りたいのは、「その先」=「民主連合政府」までの日本政治の改革の姿なのでしょう。その「ずっと先」のことは理想を語る程度になります。しかし皆さんに分かってもらえるように語れる工夫しなければ、と思案しています。どうぞご意見をお寄せください。





『不断の努力』で頑張っていこう

鈴鹿市議会議員 高橋さつき

11月の日曜日、二年ぶりの後援会バスツアーで滋賀県の湖東三山、紅葉の名所の百済寺、金剛輪寺、西明寺と三つの寺を巡りました。

紅葉も見ごろで、風もなくお天気にも恵まれましたが、なが〜い石畳の道や階段がたくさんあって結構ハード！とくに一つ目の百済寺の階段はきつかった！疲れたから『湖東三山』じゃなく、『湖東一山』だけでいいわ〜なんて話しながらも、3つの寺をしつかり満喫♪「もみじ、イチョウが素敵〜！苔がきれい。美味しそう！苔が抹茶に見えるのは私だけ?!」と、わーわー言いながら、写真もたくさん撮って楽しみました。

もみじイチョウと並んで小さな桜が咲いていて、秋と春が一緒に来たような珍しい光景もあり、とても不思議な感じでした。夏以外咲き続ける『不断桜』というらしく、憲法12条の『自由と権利は、国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない』の『不断』と同じだ〜となんだか感激する桜でした。

残念な選挙結果に本当に申し訳なく、凹んでモヤモヤとしていましたが、後援会の皆さんと紅葉と不断桜に元気をもらい、ブレずに『不断の努力』で頑張っていこうと気持ち新たになりました。これからもご支援ご指導よろしくをお願いします。



私の趣味

「楽しく言葉を描く ～己書～」

『己書』とかいて”おのれしょ”と読みます。会社の先輩に誘われてお試しで行ったらどハマリ。

「字が下手、絵が下手なんて関係ないです。”己”の”書”だから自分らしい字でいい。「楽しむ事が1番だからマイナスな発言をしたら500円罰金ですよ〜」なんて冗談も言い合

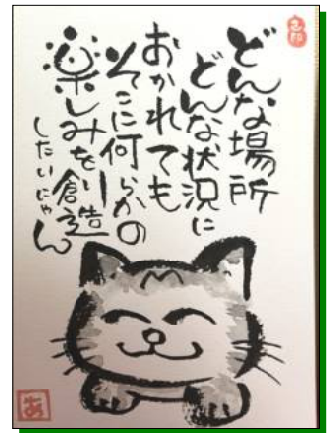


いながら、月に一度、1時間半の幸座（講座）に集中します。

笑顔になれる言葉を描くので、心も笑顔になると感じます。何事も極めるのが苦手な私ですが、今は師範になる目標が出来ました。

日々ポジティブな言葉をさがして、心を育てながら己書の練習中です。

(若松 Sさん)





新シリーズ
鈴鹿の街 再発見

第6回

旧東海道～和泉町・小田町～を歩きました!

秋晴れの先日、井田川小学校からJR井田川駅まで、旧東海道をウォーキングしました。車で通ったことはあるのですが、歩いてみると見える景色が全然違います。井田川小学校の北側には安楽川が流れています。堤防の上から西北方向に、鈴鹿山脈が遠望できます。南に向かって歩くと、けっこう登り坂になっています。道の両側には、旧東海道らしい落ち着いた街並みが続きます。小田町の地福寺を過ぎると、今度は下り坂となり井田川駅に到着です。坂の上からは、広々とした田園、鈴鹿川の向こうの

回生病院、さらに遠方には山々が見渡せます。安楽川と鈴鹿川に挟まれたこの地域は、高台のようになっていました。通りで出会った人が、「旧東海道は、水害に遭わない所を通っていた」と話してくれました。ちなみに和泉とは、水が湧き出るところ、和泉町には、弘法大師のお告げにより水が湧き出たという『弘法井戸』の伝説があるそうです。現在も鈴鹿川沿いには、上水道のための大切な井戸がいくつもあります。(伊船町 石田喜代子)



安楽川堤防からの風景



和泉町内の旧東海道

お知らせ

新春の集い

1月16日(日)1:30～ さつきプラザ

文化行事 鈴木みづ絵さん
お話 たけだ良介参議院議員
☆恒例の福引あり☆

